

【53】平成30年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	早期探索的研究者育成コース (Early development of anti-tumor treatment)
研究指導教員	中島貴子、加藤智啓、伊東文生、鈴木登、峯下昌道、三浦偉久男、三村秀文、大坪毅人、北川博昭、津川浩一郎、鈴木直、山本仁
研究・教育の概略	がん診療は、プレジジョン・メディシン（精密医療）の時代に突入しつつある。しかしその実践には、膨大な遺伝子解析結果を解釈し、それを実臨床、さらには新薬開発につなげることができる人材とシステムが重要である。 さらに、希少がんや小児がんといった新薬開発の難しい悪性疾患に対しては、本邦の現状にみられるように製薬企業主導の開発だけでは不十分である。プレジジョン・メディシンの実践を活かして、アカデミアから新薬開発をリードしていけるような人材とシステムも必要とされている。 上記のような人材を育成するために、早期探索的研究者育成コースでは以下の教育・研究を行う。 ・1-2 年目には、現在のがん医療における問題点を認識し指摘できるようになるために、学内でがん診療および臨床試験についての基礎的知識・技能を習得する。また、日本臨床腫瘍学会の認定する薬物療法専門医を取得するために必要な臨床経験をつみ、現在の標準治療およびその開発過程を理解する。学内で行われている多施設共同臨床試験や早期臨床試験、Translational Research に参加し、その考え方や方法論を理解する。またプレジジョン・メディシンの現状を把握する。 ・3-4 年目には、それぞれの希望に合わせて下記の専門分野が選択可能であり、選択した分野において、プレジジョン・メディシンの実践に必要な専門的な知識や技能を習得する。学内だけでなく、学外の施設での研修・研究を可能とする。 1) 学内または学外のがん診療・研究の専門施設にて臨床試験の計画段階から参加する。 2) 新規抗がん剤および既存の薬剤の新規組み合わせなどについての基礎研究や Translational Research を行う。 3) 臨床試験のデータマネージメントなどの臨床試験支援部門に必要な知識や技能を習得する。 4) 製薬企業の開発部門や、医薬品医療機器総合機構などに国内留学し、企業が必要とする研究・早期探索的臨床試験、政府が要求する規準、薬事などについて理解する。
研究項目	・新規抗がん剤の早期開発における臨床試験 (phase I study, early phase II study, translational research) ・プレジジョン・メディシンの実践を含む臨床研究 ・新規抗がん剤の開発に必要な基礎研究および Translational Research の基礎的研究 ・多施設共同研究グループによる臨床研究
準備学習(予習・復習)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース		
講義題目	臨床腫瘍学総論			必修/選択	必修
担当教員	中島 貴子	担当教員連絡先		内線 2521	
単位数	3 単位	履修年次		1 年	
テーマと目的	薬物療法専門医に必要な臓器横断的な知識の習得				
講義計画	日本臨床腫瘍学会の教育カリキュラムに沿った講義				
達成目標	薬物療法専門医に必要な臓器横断的な知識の習得・5 大がん以外の知識習得				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂				
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	出席日数・面接試験				
講 義 内 容					
回	内容	回	内容	回	内容
1	Molecular Biology	16	抗がん剤の投与方法	31	頭頸部がん
2	Molecular Methods	17	分子標的治療薬	32	中皮腫・縦隔腫瘍
3	がんの病因、疫学と予防	18	免疫療法	33	肛門がん
4	臨床試験	19	プレジジョン・メディシン	34	小児がん
5	がん検診・がん研究の社会的側面	20	HIV 関連悪性腫瘍	35	腎細胞がん
6	画像診断	21	腫瘍随伴症候群	36	膀胱がん・上部尿路上皮がん
7	内視鏡診断	22	転移がんの治療	37	前立腺がん
8	病理診断・TNM 分類	23	オンコロジー・エマージェンシー	38	胚細胞腫瘍
9	腫瘍マーカー	24	副作用対策と支持療法	39	子宮がん
10	腫瘍外科学総論	25	がん患者のリハビリテーション	40	卵巣・卵管がん
11	放射線腫瘍学	26	緩和療法	41	骨・軟部腫瘍
12	Inteventional Radiology	27	がんの社会心理学的側面	42	中枢神経系腫瘍
13	薬物療法総論	28	チーム医療	43	内分泌がん
14	抗がん薬の薬理学	29	遺伝相談	44	皮膚がん
15	抗がん剤	30	原発不明癌	45	消化管間質腫瘍

講義担当者承認

㊞

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(I):消化管がん		必修/選択	必修
担当教員	砂川 優	担当教員連絡先	2521	
単位数	1 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化管がんに対する標準治療の理解			
講義計画	消化管がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する			
達成目標	食道がん・胃がん・大腸がんの標準治療に対する知識の習得			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	出席日数・面接試験			
講 義 内 容				
回	内 容 (出席Ⓜ)			
1	食道がんの疫学・病理分類・肉眼分類			
2	食道がんの臨床像・検査と診断法			
3	食道がんの病期分類と治療ガイドライン			
4	食道がんの化学療法			
5	食道がんの集学的治療			
6	胃がんの疫学・病理分類・肉眼分類			
7	胃がんの臨床像・検査と診断法			
8	胃がんの病期分類と治療ガイドライン			
9	胃がんの化学療法			
10	胃がんの集学的治療			
11	大腸がんの疫学・病理分類・肉眼分類			
12	大腸がんの臨床像・検査と診断法			
13	大腸がんの病期分類と治療ガイドライン			
14	大腸がんの化学療法			
15	大腸がんの集学的治療			

講義担当者承認

Ⓔ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論 (I) : 消化管がん・症例検討		必修/選択	必修
担当教員	砂川 優	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化管がん症例について臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5			5	
6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。
7			7	
8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
9			9	
10			10	
11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(I):胆膵がん		必修/選択	必修
担当教員	中島 貴子	担当教員連絡先	2521	
単位数	1 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	胆・膵がんに対する標準治療の理解			
講義計画	胆・膵がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する			
達成目標	胆・膵がんの標準治療に対する知識の習得			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	出席日数・面接試験			
講 義 内 容				
回	内 容 (出席㊟)			
1	胆道がんの疫学・病理分類・肉眼分類			
2	胆道がんの臨床像・検査と診断法			
3	胆道がんの病期分類と治療ガイドライン			
4	胆道がんの化学療法			
5	胆道がんの化学放射線療法			
6	胆道がんの周術期化学療法			
7	胆道がんの分子標的治療			
8	膵がんの疫学・病理分類・肉眼分類			
9	膵がんの臨床像・検査と診断法			
10	膵がんの病期分類と治療ガイドライン			
11	膵がんの化学療法			
12	膵がんの化学放射線療法			
13	膵がんの周術期化学療法			
14	局所進行膵がんに対する治療戦略			
15	膵がんの分子標的治療			

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論 (I) : 胆膵がん・症例検討		必修/選択	必修
担当教員	中島 貴子	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	胆膵がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5			5	
6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。
7			7	
8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
9			9	
10			10	
11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(I):肝臓がん		必修/選択	必修
担当教員	松本 伸行	担当教員連絡先	内線	
単位数	1 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	肝がんに対する標準治療の理解			
講義計画	肝がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する			
達成目標	肝がんの標準治療に対する知識の習得			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	出席日数・面接試験			
講 義 内 容				
回	内 容 (出席Ⓔ)			
1	肝がんの疫学・病理分類			
2	肝の機能評価			
3	肝がんの発生と予防方法			
4	肝がんの臨床像			
5	肝がんの検査と診断法			
6	肝がんの病期分類と治療ガイドライン			
7	肝がんの手術療法			
8	肝移植術			
9	肝がんの壊死療法			
10	肝がんの動脈化学塞栓療法			
11	肝がんの放射線療法			
12	肝がんの薬物動注療法			
13	肝がんの全身化学療法			
14	肝がんに対する分子標的薬			
15	肝がんの集学的治療			

講義担当者承認 Ⓔ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(I):肝がん・症例検討		必修/選択	必修
担当教員	松本 伸行	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	肝がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5			5	
6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する
7			7	
8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
9			9	
10			10	
11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(Ⅱ):呼吸器がん		必修/選択	必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線	
単位数	1 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	呼吸器がんに対する標準治療の理解			
講義計画	呼吸器がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する			
達成目標	呼吸器がんの標準治療に対する知識の習得			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	出席日数・面接試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)			
1	肺がんの疫学・病理分類			
2	肺がんの臨床像・検査と診断法			
3	肺がんの病期分類と治療ガイドライン			
4	臨床病期Ⅰ期の小細胞肺がんに対する治療法			
5	限局型(LD)の小細胞肺がんに対する治療法			
6	臨床病期Ⅳ期の小細胞肺がんに対する化学療法			
7	小細胞肺がんに対する分子標的薬			
8	臨床病期Ⅰ―Ⅱ期の非小細胞肺がんに対する治療法			
9	臨床病期Ⅲ期の非小細胞肺がんに対する治療法			
10	臨床病期Ⅳ期の非小細胞肺がんに対する治療法			
11	非小細胞肺がんに対する集学的治療			
12	非小細胞肺がんに対する分子標的薬			
13	肺がん脳転移に対する治療			
14	Superior sulcus tumor (SST)			
15	高齢者肺がんに対する化学療法			

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース		
講義題目	化学療法各論(Ⅱ):呼吸器がん・症例検討		必修/選択	必修	
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線		
単位数	2 単位	履修年次	1 年		
テーマと目的	呼吸器がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂				
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。	
2			2		
3			3		
4			4		
5			5		
6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する	
7			7		
8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。	
9			9		
10			10		
11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。	
12			12		
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	
14			14		
15			15		

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(Ⅱ):乳がん		必修/選択	必修
担当教員	津川 浩一郎	担当教員連絡先	内線	
単位数	1 単位	履修年次	2 年	
テーマと目的	乳がんに対する標準治療の理解			
講義計画	乳がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する			
達成目標	乳がんの標準治療に対する知識の習得			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	出席日数・面接試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)			
1	乳がんの疫学・病理分類			
2	乳がんの臨床像			
3	乳がんの検査・診断法			
4	乳がんの病期分類とガイドライン			
5	乳がんの予後因子			
6	乳がんの手術療法			
7	乳がんの放射線療法			
8	乳がんに対するホルモン療法			
9	乳がんに対する化学療法			
10	乳がんに対する分子標的薬			
11	乳がんに対する術後補助化学療法(集学的治療)			
12	乳がんに対する術前補助化学療法(集学的治療)			
13	乳がん脳転移に対する治療			
14	乳がん骨転移に対する治療			
15	特殊な病態(Paget、潜在性乳がん、男性乳がん、乳癌と妊娠)			

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(Ⅱ):乳がん・症例検討		必修/選択	必修
担当教員	津川 浩一郎	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	乳がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5			5	
6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。
7			7	
8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
9			9	
10			10	
11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(Ⅱ):血液がん		必修/選択	必修
担当教員	三浦偉久男	担当教員連絡先	内線	
単位数	1 単位	履修年次	1 年	
テーマと目的	血液悪性疾患に対する標準治療の理解			
講義計画	血液悪性疾患の疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する			
達成目標	血液悪性疾患の標準治療に対する知識の習得			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	出席日数・面接試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⓪)			
1	WHO 分類			
2	急性骨髄性白血病(AML)			
3	急性リンパ性白血病(ALL)			
4	慢性骨髄性白血病(CML)			
5	真性多血症(PV)			
6	本態性血小板症(ET)			
7	原発性骨髄線維症(PMF)			
8	特発性好酸球増多症候群(HES)、慢性好酸球性白血病(CEL)			
9	肥満細胞症			
10	慢性リンパ球性白血病			
11	骨髄異型症候群			
12	非ホジキンリンパ腫(NHL)			
13	ホジキンリンパ腫(HL)			
14	成人 T 細胞白血病・リンパ腫			
15	多発性骨髄腫			

講義担当者承認

Ⓔ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース		
講義題目	化学療法各論(Ⅱ):血液がん・症例検討		必修/選択	必修	
担当教員	三浦 偉久男	担当教員連絡先	内線		
単位数	2 単位	履修年次	1 年		
テーマと目的	血液がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂				
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。	
2			2		
3			3		
4			4		
5			5		
6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。	
7			7		
8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。	
9			9		
10			10		
11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。	
12			12		
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	
14			14		
15			15		

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(Ⅲ):婦人科がん・症例検討		必修/選択	選択
担当教員	鈴木 直	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	2 年	
テーマと目的	婦人科がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		5	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する
6			6	
7	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		7	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
8			8	
9			9	
10	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		10	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
11			11	
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(Ⅲ):泌尿器がん・症例検討		必修/選択	選択
担当教員	力石 辰也	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	2 年	
テーマと目的	泌尿器がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5			5	
6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する
7			7	
8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
9			9	
10			10	
11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(Ⅲ):骨軟部腫瘍・症例検討		必修/選択	選択
担当教員	仁木 久照	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	2 年	
テーマと目的	骨軟部腫瘍症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		5	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する
6			6	
7	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		7	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
8			8	
9			9	
10	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		10	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
11			11	
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	化学療法各論(Ⅲ):頭頸部腫瘍・症例検討		必修/選択	選択
担当教員	肥塚 泉	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	2 年	
テーマと目的	頭頸部腫瘍症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		5	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する
6			6	
7	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		7	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
8			8	
9			9	
10	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		10	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
11			11	
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース		
講義題目	放射線治療学:各論・症例検討		必修/選択	選択	
担当教員	五味 弘道	担当教員連絡先	内線		
単位数	2 単位	履修年次	2 年		
テーマと目的	放射線治療症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂				
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。	
2			2		
3			3		
4			4		
5	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		5	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。	
6			6		
7	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		7	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。	
8			8		
9			9		
10	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		10	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。	
11			11		
12			12		
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	
14			14		
15			15		

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(19)

講義コード		専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	がん治療における外科手術		必修/選択	選択
担当教員	大坪毅人(月川准教授)	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1,2	
テーマと目的	癌治療における外科治療の位置づけを理解する			
講義計画	それぞれの消化器癌手術について根治手術、非根治手術について講義を行う			
達成目標	消化器癌治療における外科治療の適応と内容を大まかに理解できる			
教科書・参考書	標準外科学			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	出席、総合討論、発表			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容
1	根治手術(食道癌)Ⅰ		1	
2	根治手術(食道癌)Ⅱ		2	
3	根治手術(胃癌)Ⅰ		3	
4	根治手術(胃癌)Ⅱ		4	
5	根治手術(大腸癌)Ⅰ		5	
6	根治手術(大腸癌)Ⅱ		6	
7	根治手術(肝臓癌)Ⅰ		7	
8	根治手術(肝臓癌)Ⅱ		8	
9	根治手術(胆道癌)Ⅰ		9	
10	根治手術(胆道癌)Ⅱ		10	
11	根治手術(膵臓癌)Ⅰ		11	
12	根治手術(膵臓癌)Ⅱ		12	
13	非根治手術Ⅰ		13	
14	非根治手術Ⅱ		14	
15	集学的医療としての外科治療		15	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(20)

講義コード	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	小児固形悪性腫瘍		必修/選択	
担当教員	北川 博昭	担当教員連絡先	内線 3222	
単位数	1単位（後期1）	履修年次	1,2	
テーマと目的	小児腫瘍の要点			
講義計画	小児腫瘍に関する集学的治療の理解			
達成目標	小児白血病など小児腫瘍全般について学び、特に成人との違い、小児固形悪性腫瘍の集学的治療を理解し説明できるようにする。			
教科書・参考書	小児がんの診断と治療 診断と治療社、標準小児外科学 医学書院			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)
1			1	小児腫瘍総論
2			2	小児白血病の集学的治療
3			3	小児悪性腫瘍患児の晩期合併症
4			4	小児腫瘍と染色体異常
5			5	小児神経芽腫の基礎と病期分類
6			6	小児神経芽腫の予後因子
7			7	腎芽腫の基礎
8			8	腎芽腫の病理と病期分類
9			9	腎芽腫以外の小児悪性腎腫瘍
10			10	肝芽腫の基礎
11			11	肝芽腫の病理と病期分類
12			12	肝芽腫の集学的治療
13			13	胚細胞腫瘍の基礎
14			14	胚細胞腫瘍の病理と病期分類
15			15	胚細胞腫瘍の予後

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(21)

	※	専攻分野	早期探索的研究者育成コース	
講義題目	緩和医療学:各論・症例検討		必修/選択	選択
担当教員	月川 賢	担当教員連絡先	内線	
単位数	2 単位	履修年次	2 年	
テーマと目的	緩和治療症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決			
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する			
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる			
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、江南堂			
準備学習(予習・復習・時間)	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間			
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席㊥)		後期(回)	内 容 (出席㊥)
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。
2			2	
3			3	
4			4	
5			5	
6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。		6	2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する
7			7	
8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。		8	3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について1 単位 1 例ずつレポートを作成する。
9			9	
10			10	
11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。		11	4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。
12			12	
13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。		13	5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
14			14	
15			15	

講義担当者承認

㊥